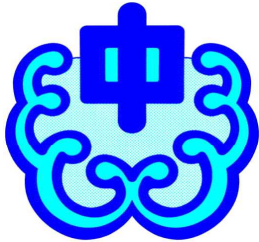


浪江中だより

平成30年度 第25号
2018. 11. 9
文責 校長 鳴原 俊洋



教育目標

- 自ら探求的に学ぶ生徒
- 礼儀正しく、節度ある生活をする生徒
- 健康で、安全な生活をする生徒
- ◇ 自分に自信を持ち、行動できる生徒（今年度重点目標）



二本松針道校舎

次の目標に向かってスタートを切る

—自分らしい生き方を探して—

朝晩の冷え込みも厳しくなり、山並みの紅葉の鮮やかさも一段と映える季節となりました。ここ浪江中針道校舎の木々も右の写真のように色づき、早くも落ち葉が地面を黄色に染めている場所も見られます。



先週の秋桜祭が終了してから、生徒たちは新たな目標に向けてスタートを切りました。特に3年生は、高校受験というおそらく今までで一番大きな壁を迎えることとなります。その壁の向こうには、人生の無限の生き方と可能性が広がっています。3年生一人一人が壁を打ち破って、自分の人生を自分の力で切り拓いていってほしいと願っています。

以下に、詩人である新川和江さんの「名づけられた葉」という詩を紹介します。

名づけられた葉 新川和江

ポブラの木には ポブラの葉
何千何万芽をふいて
緑の小さな手をひろげ
いっしんにひらひらさせても
ひとつひとつのてのひらに
載せられる名はみな同じ

わたしも
いちまいの葉にすぎないけれど
あつい血の樹液をもつ
人間の歴史の幹から分かれた小枝に
不安げにしがみついた
おさない葉っぱにすぎないけれど
わたしは呼ばれる
わたしだけの名で 朝に夕に

だからわたし 考えなければならぬ
誰のまねでもない
葉脈の走らせ方を 刻みのいれ方を
せいっぱい緑をかがやかせて
うつくしく散る法を

名づけられた葉なのだから
考えなければならぬ
どんなに風がつよくとも

合唱曲としても有名ですが、特に太字の八行（※本来は七行ですが、スペースの関係で八行で表記しました）に着目していただきたいと思います。この部分を私は、「一人一人が他人のまねをするのではなく、自分らしい生き方を考えていこう。どんなに辛く苦しいことがあっても精一杯生きて、自分自身を輝かせていこう。」と解釈しています。試験の合否は別として、受験という壁に挑んでいくことが、将来自分を輝かせる一つの大きな経験になると思います。自分は何をしたいのか、どう

先生方とのバスケットボールゲーム

